

鈴木 徹三先生のご逝去を悼む

早川 征一郎



2002年6月4日(火)未明、法政大学名誉教授であり、大原社会問題研究所名誉研究員でもあった鈴木徹三先生が亡くなられた。享年79歳であった。ご本人の遺志により、ごく限られた方々による密葬とすること、大学および研究所などには後日、お知らせするようにとのことであり、私どもが先生の訃報に接したのは、ほぼ1週間後であった。

亡くなられる約1ヵ月前であるが、『大原社会問題研究所雑誌』2002年5月号には、鈴木徹三「戦後社会運動史資料論 - 鈴木茂三郎(2)」が掲載された。その雑誌と抜き刷りは、すでに生前、先生のお手元に差し上げられていた。おそらく、それが先生の絶筆となったと推測される。夫人の鈴木玲子氏によれば、先生はその続編(3)を執筆され、さらにその続きを執筆中であったという。だが、病状が極度に悪化し、ついに執筆ができなくなったが、それでもなお、その原稿のことを気にかけて居られたということである。

*

鈴木徹三先生は、1923年1月22日、東京・幡ヶ谷で、父・鈴木茂三郎、母・鈴木ゑんの3男として生まれた。父・鈴木茂三郎は、のちに日本社会党委員長として活躍したことで著名である。鈴木先生に鈴木茂三郎に関する研究が多いのは、その生まれと育ちの縁によるものだろうか。たとえば、著書では、『鈴木茂三郎

(戦前編) - 社会主義運動史の一断面』(日本社会党機関紙局、1982年)、『片山内閣と鈴木茂三郎』(柏書房、1990年)などがある。

鈴木先生は、1947年に京都帝国大学経済学部を卒業後、東京大学大学院で有沢広巳教授のもとで学んだ。1949年4月、法政大学の専任教員となり、経済学部で工業政策論、日本経済論を担当した。1962年4月以降は、ずっと経済政策論を担当されてきた。

私事にわたって恐縮であるが、私は、法政大学経済学部の学生時代、その鈴木先生の経済政策論の講義を1年間、受講させていただいた。当時の経済学部では、宇佐美誠次郎先生の財政学、大島清先生の日本農業論、上杉捨彦先生の社会政策論などの人気講義があったが、鈴木先生の経済政策論も同様に人気があり、多くの学生が受講していた。

先生の講義は、立て板に水といった流ちょうな講義ではなく、どちらかといえば、とつとつと語る感じの講義であった。ただ、その語り口のなかから、経済政策の主体である国家をいかに捉えるか、客体の捉え方はどうかなど、捉えた結果を結論として断定的に講義で与えるのではなく、「捉え方」における諸見解、諸学説などを丁寧に紹介され、学生自身にもっと考えさせるといった講義であった。

*

1972年4月、鈴木徹三先生は、法政大学常務

理事（財務担当）に就任された。法政大学大原社会問題研究所と鈴木先生との公式の関わりは、その年の9月、先生が財団法人法政大学大原社会問題研究所の理事に就任されて以来、続いた。研究所理事としては、1986年3月、財団法人法政大学大原社会問題研究所の解散まで携わった。その後、法政大学の付置研究所となっても、研究所の多摩キャンパス移転後の同年4月より、学部の教授会にあたる研究所の運営委員会の委員となられ、1993年3月、法政大学を定年退職されるまで、その任にあった。

その間、20年以上にわたり、研究所の運営について尽力された。さらに、研究所所蔵資料の復刻・刊行にも貢献された。たとえば、現在、207冊に達している戦前史料の復刻シリーズ『日本社会運動史料』（法政大学出版局刊）では、『無産階級評論雑誌 大衆』（1976年）の解題を執筆されたし、戦後史料の復刻シリーズ『戦後社会労働運動資料』（法政大学出版局刊行）では、『社会主義政治経済研究所機関誌 社会主義』（1992年）および『社会主義政治経済研究所機関紙 政治経済通信 社会主義政経週報 週刊社会主義政経通信』（1993年）の解題も執筆された。

それだけではない。鈴木茂三郎関係資料（鈴木茂三郎文庫）について、これを順次、大原社会問題研究所に寄贈された。この寄贈は、定年

退職後も続いており、まだ終わっていない。

大原社会問題研究所は、鈴木先生の研究所への長年にわたる貢献に感謝の意を込めて、1994年4月より、大原社会問題研究所の名誉研究員という称号を冠している。

*

鈴木徹三先生は逝去されたが、先生と大原社会問題研究所との関係は、鈴木茂三郎資料の受贈という関係では、これからも続いていく。今後は、夫人の鈴木玲子氏およびご子息の鈴木徹太郎氏をつうじ、研究所は寄贈を受けることになっている。

大原社会問題研究所は、すでに寄贈されている鈴木茂三郎資料について、これまで順次、整理してきた。今後、寄贈される予定のものを含み、できるだけ早い機会に、鈴木茂三郎資料の整理を完了して、広く世間に公開するのは研究所の社会的責務であり、鈴木先生の研究所へのご尽力にお応えする最善の道でもある。

その資料は、日本社会党研究の一大資料宝庫であるのは間違いない。そのデータ数は膨大で、現在でも図書約1500件、原資料約1万件にのぼっている。鈴木徹三先生の名は、その鈴木茂三郎資料とともに、研究所の歴史に残るであろう。ここに、謹んでご冥福をお祈りします。

（はやかわ・せいいちろう
法政大学大原社会問題研究所教授）